

地域県土警察常任委員会資料

(令和8年8月21日)

ページ

■ 鳥取市による鳥取駅周辺再整備に係る検討状況について	【交通政策課】・・・2
■ 鳥取砂丘コナン空港第2期コンセッション実施契約の締結について	【交通政策課】・・・4
■ 「温泉湯ったりトトリけん」ロゴマークの決定について	【観光戦略課】・・・5
■ 「鳥取うみなみロード」のナショナルサイクルルート指定について	【観光戦略課】・・・6
■ 「ブラジル第二アリアンサ鳥取村入植100周年記念式典」及び「ブラジル鳥取県人会創立75周年及び県人会館建設30周年記念式典」などへの鳥取県訪問団の派遣結果について	【交流推進課】・・・7
■ インド・オディシャ州との友好交流について	【交流推進課】・・・9

輝く鳥取創造本部

鳥取市による鳥取駅周辺再整備に係る検討状況について

令和8年8月21日
交 通 政 策 課

鳥取市では、中心市街地に賑わいを取り戻し持続可能なまちづくりの推進に向けて、市が主体となって鳥取駅周辺再整備の検討が進められています。県は市が主催する各種検討会議に参加し、より良い計画となるように検討に協力しています。

これまでの議論等を踏まえ、8月3日（月）に開催された「第9回鳥取駅周辺リ・デザイン会議」において「鳥取駅周辺再生整備計画（素案）」が策定・公表されましたので報告します。

1 市による主な検討状況

時期	項目・主な内容
令和6年 6月	「基本計画」策定・公表 ＜基本方針＞①集約型交通ターミナル機能の再編／②まちなかへ賑わいをしみ出す空間整備／③市民が集いたくなる利便施設・公共公益施設の整備／④民間の誘導・整備による多機能な複合施設の整備
令和7年 8月	「レイアウト案」策定・公表 ※今後検討を具体化していく上でのベースとなる全体配置案を提示
令和8年 3月	「整備計画（素案・一部）」策定・公表 ※「基本計画」の目指す将来像の実現に向け、整備方針や空間デザインを提示
令和8年 8月	「整備計画（素案）」策定・公表 ※令和8年3月公表の「整備計画（素案・一部）」に、以下を追記 ・バスターミナル、歩行者広場等の基盤施設について、鳥取市が主体となり整備する。 ・複合施設について、令和9年度に検討ワーキンググループを設立し、計画を具体化する。 ・段階的整備計画と想定スケジュールを明確化。

※鳥取市ではこれまで交通事業者や地元商業関係者、広場利用団体、障がい者団体等との意見交換や市民ワークショップ・市民フォーラムを開催。あわせて各種検討会議（県も出席）を実施。

【今後の市の想定スケジュール】

8～9月 平面横断と地下道のあり方について市民説明会・現地アンケート実施

9月 整備計画（素案）についてパブリックコメント実施

10月 整備計画（原案）を作成

11月「四者連携協議会（副知事出席）」、12月「鳥取駅周辺リ・デザイン会議（政策統轄監出席）」において検討⇒年内に「整備計画」策定

【中長期スケジュール】

複合施設 令和9年度：基本計画策定、令和10～12年度：民間投資公募・選定、令和13年度～設計・着工
バスターミナル・広場 令和9年度：都市計画決定、令和10～11年度：設計、令和12年度～着工

2 各種検討会議への県の出席状況

四者連携協議会（副知事）、リ・デザイン会議（政策統轄監）を通じて助言・提案を行うなど、より良い整備内容となるよう市による検討に協力を行っている。

【県による主な助言・提案】

- 駅と駅北側をつなぐ平面横断と地下道の取扱いについて、今後実施する市民アンケートの際には、安全性・利便性の観点からのメリット・デメリットを市民に分かりやすく説明してほしい。また、実施にあたっては県にも相談してもらいたい。
- 駅だけではなく、駅北側商業エリアを含め拡がりのある展開が大事であり、駅と駅北側に民間の投資を促すために、市が令和8年度中に策定する中心市街地グランドデザインと一体となって、整備計画を策定すべき。
- 計画では来年度からバスターミナル、県道の設計となっているが、市民アンケートでも一番の期待は買い物、飲食等であり、複合施設と中心市街地がその役割を担う中で、その内容が決まらないまま先行してバスターミナルの整備が進むのを心配している。中心市街地グランドデザインと複合施設の機能と同時にバスターミナルを説明できる方が、市民の理解が進むのではないかと。

※引き続きより良い整備内容となるよう、県の立場（土地所有者、道路・河川管理者、広域団体）から市による検討に協力していく。

（参考）県関与の各種検討会議（いずれも鳥取市主催）※（）内は令和8年度開催日

（1）四者連携協議会（整備計画の実現に向けた四者間の調整）（令和8年7月21日）

（鳥取市）副市長 （鳥取県）副知事 （J R 西日本山陰支社）副支社長 （鳥取商工会議所）副会頭

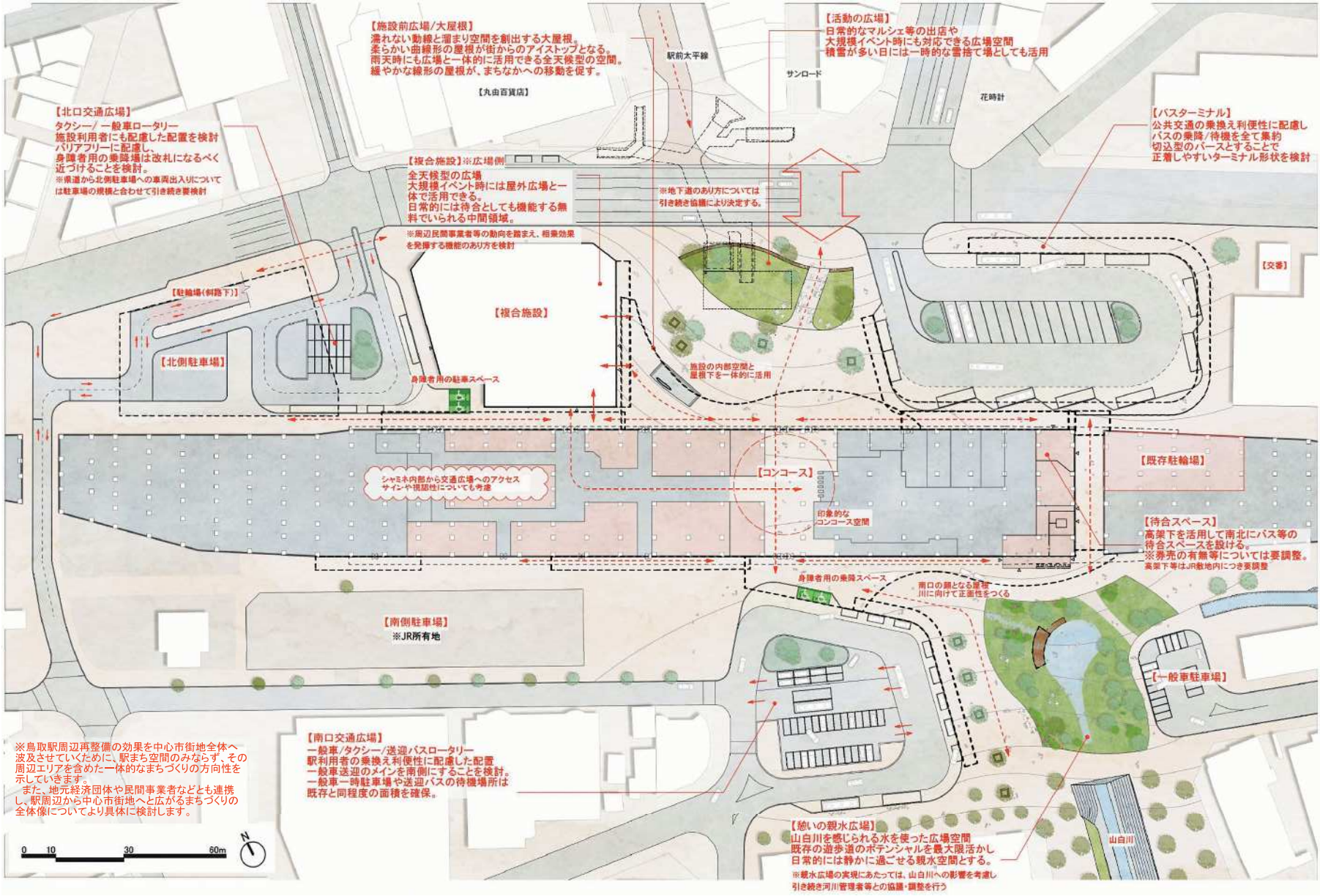
（2）鳥取駅周辺リ・デザイン会議（整備計画の審議）（令和8年8月3日）

座長：谷本圭志氏（鳥取大学教授）、有識者、行政機関（県政策統轄監を含む）、交通事業者、経済団体、金融機関、まちづくり会社

北

【駅まち空間平面イメージ】

※関係者協議中のものであり、今後変更の可能性があります



南

鳥取砂丘コナン空港第2期コンセッション実施契約の締結について

令和8年8月21日
交通政策課

鳥取砂丘コナン空港第2期コンセッション（以下「本事業」）については、(株)鳥取エアポート（優先交渉権者 J P i X・O C コンソーシアムが設立した特別目的会社）に運営権を設定することについて令和8年6月議会で可決され、令和8年6月29日に運営権を設定しました。その後、同社との協議が整い、令和8年7月30日に契約締結式を開催し、本事業の実施における県及び運営権者の役割・責任を定める公共施設等運営権実施契約を締結しましたので、その概要を報告します。なお、契約書及び契約締結式の概要を県ホームページに掲載しています。

（掲載URL）<https://www.pref.tottori.lg.jp/item/1433192.htm#itemid1433192>

1 実施契約の概要

- (1) 締結日 令和8年7月30日
- (2) 契約名 第2期鳥取県営鳥取空港特定運営事業等公共施設等運営権実施契約
- (3) 事業期間 令和9年4月1日から令和29年3月31日まで（20年間）
※ オプション延長（最長10年）及び合意延長（最長5年）の延長が可能⇒最長35年間
「オプション延長」… 運営権者の希望により行使可能な延長
「合意延長」… 不可抗力事象発生時に運営権者が申請し県が認める場合に可能な延長

(4) 事業内容

区 分	内 容
ア 空港特定運営事業（運営権対象施設に係る事業）	
①空港運営等事業	滑走路、着陸帯、誘導路、エプロン等の基本施設の維持管理・運営等
②空港航空保安施設運営等事業	航空灯、電気施設・機械施設等の航空保安施設の維持管理・運営
③環境対策事業	県が行う騒音調査・対策及び空港周辺部の管理への協力
④附帯事業	・国際会館の維持管理・運営 ・駐車場の維持管理・運営等 ・空港脱炭素化推進
イ ビル施設等事業（運営権対象外施設に係る事業）	・国内ターミナルビル施設の維持管理・運営 ・貨物ビル施設の維持管理・運営 ・移転元地の維持管理 等

2 運営権者の概要

設立日	令和8年6月12日
商 号	株式会社鳥取エアポート
所在地	鳥取市湖山町西四丁目110番地5（鳥取空港の所在地）
代表者	代表取締役 岡田 信一郎

3 契約締結式の概要

- (1) 日 時 令和8年7月30日（木）午前11時30分から11時50分まで
- (2) 場 所 鳥取砂丘コナン空港 1階 コナンホール
- (3) 出席者

【株式会社鳥取エアポート】

代表取締役 岡田 信一郎（おかだ しんいちろう）氏 ほか
・優先交渉権者 代表企業（株）日本共創プラットフォーム（JPiX） 執行役員
・富山エアポート（富山空港運営権者）及び南紀白浜エアポート（南紀白浜空港運営権者）の代表者

【株式会社オリエンタルコンサルタンツ】※優先交渉権者 構成企業

執行役員 中国支社長 藪内 一彦（やぶうち かずひこ）氏 ほか

【鳥取空港ビル株式会社】※現運営権者

代表取締役社長 宮部 久照（みやべ ひさてる）氏

【鳥取県】鳥取県知事 平井 伸治



4 第2期事業開始までの今後の予定

時 期	主な内容
令和9年3月末まで	・現運営権者鳥取空港ビルから鳥取エアポートへ業務引継 ・事業計画（全体・中期・単年度）の承認 ・県と鳥取エアポートの行政財産等使用貸借契約 など
令和9年2月頃	鳥取エアポートによる鳥取空港ビルの全株式取得 ・本県が各株主と締結している株式譲渡予約契約の本県の地位を運営権者に譲渡 ・本県保有株式の譲渡契約の締結
令和9年4月	第2期事業開始

「温泉湯ったりトットリけん」ロゴマークの決定について

令和8年8月21日

観光戦略課

日本の「温泉文化」が、昨年11月にユネスコ無形文化遺産への提案案件として選定され、令和12年の正式登録に向けた審議が実施されることとなっており、本県では9月7日（月）に、全国初となる「温泉文化・世界サミット」を開催します。

この度、当該登録の早期実現に向けた機運醸成を図るとともに、多種多様な温泉がある本県を「温泉湯ったりトットリけん」として国内外へアピールするため、ロゴマークを作成しました。

1 ロゴマークについて

ロゴマークデザインは一般公募で募集。7月上旬に審査会を開催し、応募作品480点の中から最優秀賞（1点）、優秀賞（3点）を選定した。

【最優秀賞作品】 ※ロゴマークとして採用



<制作者>

池尻 恵利也（いけじり えりや）／東京都

<作品コンセプト>

- ・円は人のつながりとおもてなしの心、中央の流れる白い曲線は温泉の湯と癒やしの流れを表現している。
- ・上部には大山や中国山地の稜線、下部には温泉の波紋を配置し、温泉・山・海・湖・砂丘へと広がる鳥取の魅力を一つの造形に集約した。

2 今後のロゴマークの活用

ロゴマークについては、HP、SNS、ポスター、パンフレット、のぼり等のPR資材のほか、ノベルティ等を作成する際に使用し、ユネスコ無形文化遺産登録の機運醸成や本県独自の温泉文化の情報発信に活用していく。

（参考）「温泉文化・世界サミット」について

開催目的：全国の温泉、旅館・ホテル、観光産業、研究者、自治体関係者が一堂に会し、2030年の「温泉文化」のユネスコ登録に向け、「温泉文化」の文化的価値・魅力の発信、観光誘客の促進を行う。

日時：9月7日（月） 午前9時30分から正午まで

会場：ハワイアロハホール（東伯郡湯梨浜町はわい長瀬584）

参加者：全国の温泉関係者（旅館・ホテル・自治体）、温泉学会員、一般参加者等 300名程度

主催：「温泉文化」ユネスコ無形文化遺産登録を応援する知事の会
（会長・平井知事） （協力：「温泉文化」国民会議）

主な内容：温泉文化に関する講演会、パネルディスカッション、展示など

その他：本サミットにあわせて、9月7日（月）・8日（火）に第29回温泉学会「鳥取県はわい温泉・東郷温泉大会」が望湖楼にて開催されます。

「鳥取うみなみロード」のナショナルサイクルルート指定について

令和8年8月21日

観光戦略課

令和8年7月23日（木）に自転車活用推進本部長（国土交通大臣）により、鳥取うみなみロードがナショナルサイクルルート（NCR（※））に指定されました。これを受け、第1回鳥取県サイクル新時代推進会議及び「鳥取うみなみロード」ナショナルサイクルルート指定記念セレモニーを開催したので、次のとおり報告します。

※ 日本を代表し、世界に誇り得るサイクリングルートとして、走行環境や受入環境、情報発信など一定の要件を満たすルートを国土交通省が指定する制度。

1 第1回鳥取県サイクル新時代推進会議（7月24日（金） 午後1時～）

NCR指定を契機に、更なる走行環境・受入環境の充実及び国内外へのプロモーションによるサイクルツーリズム推進を図るため、新たに誘客実施主体となるサイクルツーリズム事業者やこれからを担う学生代表を構成員に加えて、「鳥取県サイクルツーリズム推進・連携会議」から協議体を再発足。

（1）出席者

鳥取県商工会連合会、コグステーション皆生、鳥取県自転車商協同組合、全国旅行業協会鳥取県支部、西日本旅客鉄道（株）、高橋幸博氏（アドバイザー）、国道路管理者（鳥取河川国道事務所、倉吉河川国道事務所、日野川河川事務所）、鳥取大学サイクリング部（学生代表）、（一社）BisuiDaisen（サイクルツーリズム事業者）、13市町村、鳥取県 ほか

（2）主な意見

- ・指定を機に世界へ発信していくことや、インバウンド受入れをしっかりとっていく必要がある。（アドバイザー）
- ・鳥取うみなみロードだけではなく、各市町にも足を運んでもらえるように、コースや宿泊先、お店などの発信をやっていききたい。（日吉津村）
- ・走行環境に関する課題や意見に対して、県と連携しながら解決を進めていきたい。（国道路管理者）
- ・サイクリングで地域の収益を上げていくモデルを皆さんと作っていききたい。（サイクルツーリズム事業者）
- ・鳥取うみなみロードをこれからも活用していきたい。（学生代表）

（3）今後の取組方針

- ・NCR審査委員会の審査結果に対して、更なる走行環境・受入環境の改善・充実に関する新アクションプランをワーキンググループを設置して検討を進める。

【主な委員意見】

- ・交通量1万台以上で路肩確保できていない区間、自転車歩行者道を通行させている区間等の対応が必要
- ・鳥取大橋において、東西方面でルートが異なるため、分かりやすい案内が必要。
- ・玄関口となる鉄道の駅について、ゲートウェイ施設としての整備を進めて欲しい。
- ・国内外へのサイクリング大会への出展によるプロモーションの実施。
- ・台湾のサイクル系旅行会社を招いた視察（ファムツアー）の実施。
- ・ワールドマスターズゲームズ関西を契機として、世界へ魅力を発信。
- ・県主催NCR記念のサイクリング大会の開催。

2 「鳥取うみなみロード」ナショナルサイクルルート指定記念セレモニー（7月24日（金） 午後1時40分～）

「鳥取うみなみロード」のNCR指定を祝いルートの魅力を発信するため、岩美町浦富海岸荒砂神社前において関係者出席のもと、くす玉割や記念ライド等を実施。



第3次ナショナルサイクルルート指定式（7/23）



第1回鳥取県サイクル
新時代推進会議（7/24）



ナショナルサイクルルート
指定記念セレモニー（7/24）

「ブラジル第二アリアンサ鳥取村入植 100 周年記念式典」及び「ブラジル鳥取県人会創立 75 周年及び県人会館建設 30 周年記念式典」などへの鳥取県訪問団の派遣結果について

令和 8 年 8 月 21 日
交 流 推 進 課

7 月 25 日（土）に開催された「第二アリアンサ鳥取村入植 100 周年記念式典」、7 月 26 日（日）に開催された「ブラジル鳥取県人会創立 75 周年及び県人会館建設 30 周年記念式典」などに、鳥取県訪問団が参加しました。

1 訪問者

中原副知事、下田教育委員会事務局教育次長、福田議長、浜田議員、広谷議員 ほか

※鳥取市（深澤鳥取市長[団長]、星見市議会議員ほか）、米子市（伊木米子市長[団長]ほか）、民間訪問団（団長：田中節照氏）も式典に参加した。

2 訪問概要

(1) 日本移民開拓先没者慰霊碑参拝

〔日時〕 7 月 23 日（木）午後 1 時 30 分～午後 2 時

〔場所〕 イビラプエラ公園内（サンパウロ市内）

〔概要〕 ブラジル都道府県人会連合会の谷ロジョゼ眞一郎会長ほかの案内のもと、慰霊碑を参拝し、献花を捧げ、戦没者のご冥福をお祈りした。



参拝の様子

(2) ブラジル日本移民史料館視察

〔日時〕 7 月 23 日（木）午後 2 時 30 分～午後 4 時

〔会場〕 ブラジル日本移民史料館（サンパウロ市内）

〔概要〕 ブラジルへの移民の歴史等について見識を深めるため、ブラジル日本移民史料館を視察し、鳥取県民初の渡伯者である明徳梅吉（あけほうめきち）氏の軌跡やその後の開拓の経緯、移民の生活実態や同国の移民政策に係る歴史的評価などを確認した。



移民資料館にて

(3) ミランドポリス市長・市議会議員表敬

〔日時〕 7 月 24 日（金）午前 11 時～午後 2 時

〔会場〕 サンパウロ州ミランドポリス市庁舎・市議会庁舎

〔概要〕 第二アリアンサ鳥取村を含むアリアンサ全区を含む行政区であるサンパウロ州・ミランドポリス市長を表敬訪問し、アリアンサ入植 100 周年への感謝を伝達するとともに、鳥取県と第二アリアンサ鳥取村との交流の現状と展望について意見交換を行った。



ミランドポリス市長との面談



ミランドポリス市議会議員との面談

(4) 弓場(ゆば)農場視察(第一アリアンサ)

〔日時〕 7 月 24 日（金）午後 2 時 30 分～午後 3 時 45 分

〔会場〕 弓場農場（サンパウロ州ミランドポリス郡 第一アリアンサ地区）

〔概要〕 移民受入を行ってきた第二アリアンサ鳥取村周辺の農場を視察し、農業を基盤とした「自給・共同」の生活文化に触れ、移民の生活に関して知見や同地への理解を深めた。

(5) 第二アリアンサ鳥取村日本語学校訪問

〔日時〕 7 月 24 日（金）午後 4 時～午後 5 時 30 分

〔会場〕 第二アリアンサ鳥取村 日本語学校（第二アリアンサ鳥取村内）

〔概要〕 日本語学校運営の実情を視察するとともに、鳥取県教育委員会事務局下田教育次長が子どもたちに鳥取クイズや折り紙を使った特別授業を実施。授業を通じて鳥取県の魅力を伝え、アリアンサの子ども達との交流を深めた。



下田教育次長による授業

(6) 第二アリアンサ鳥取村入植 100 周年記念式典

〔日時〕 7 月 25 日（土）午前 10 時～午後 4 時

〔会場〕 第二アリアンサ鳥取村「自治会館」

- 〔概要〕・前田(まえだ)ヒカルド卓久(たくひさ)第二アリアンサ鳥取村自治会長から、「鳥取との繋がりを大切にしながら、アリアンサ全体を盛り上げていき、未来に向けて村を守り発展させていきたい。」との挨拶があった。
- ・平井知事のビデオメッセージ、石破前総理からの祝辞披露とともに、現地で中原副知事及び福田議長が祝辞を述べ、記念品を贈呈し、村民や関係者への敬意と祝意を示した。
 - ・来賓として参加された鈴木誉里子（すずきよりこ）在サンパウロ日本国総領事から、鳥取県の日本語教員派遣などの取組への高い評価と今後の交流発展への期待が示された。
 - ・第二アリアンサ鳥取村日本語学校生徒による傘踊り披露に訪問団が参加し、淀江さんこ節保存会が淀江さんこ節を披露するなど、会場を盛り上げた。



第二アリアンサ鳥取村「自治会館」にて



記念式典の様子



生徒の傘踊りに参加する訪問団

(7) ブラジル鳥取県人会創立 75 周年及び県人会館建設 30 周年記念式典

〔日時〕 7 月 26 日（日）午後 4 時～午後 8 時

〔会場〕 ブラジルー鳥取交流センター（サンパウロ市）

- 〔概要〕・村信政幸(むらのぶまさゆき)ブラジル鳥取県人会会長から、鳥取県からの人的・物的支援（留学生や研修生受入等）や、会員の日ごろの理解と協力、先人たちの善意に対する感謝と次世代に鳥取の心を伝えていく意気込みが述べられた。
- ・平井知事のビデオメッセージ、石破前総理からの祝辞披露とともに、現地で中原副知事及び福田議長が祝辞を述べ、記念品を贈呈し、ブラジル鳥取県人会が担ってきた役割への感謝の意と今後の益々の発展への期待が示された。
 - ・また、永年にわたりブラジル鳥取県人会に多大な貢献をいただいた方に対して特別功労者表彰などを行い、受賞者の功績を讃えた。



村信会長(左)への記念品贈呈



集合写真



75周年ケーキカット

(8) サンパウロ・鳥取友好の森視察

〔日時〕 7 月 27 日（月）午前 10 時 30 分～正午

〔会場〕 アルベルト・レーフグレン州立公園（サンパウロ市）

- 〔概要〕鳥取ゆかりの先人の名前が付いた樹木などを視察し、今後の同地での鳥取との交流の絆について発展を祈念した。

<参考>

○ブラジル鳥取県人会

- (1) 会員数 約 250 家族
- (2) 代表者 ブラジル鳥取県人会会長 村信 政幸(むらのぶ まさゆき) 氏（旧東伯町出身）
- (3) 設立経緯 1952 年（昭和 27 年）鳥取大火の救援募金運動を契機として発会。

○第二アリアンサ鳥取村

- (1) 世帯数 約 41 世帯 約 117 人（うち鳥取県関係 2 世帯）
- (2) 代表者 第二アリアンサ鳥取村自治会会長 前田 ヒカルド 卓久（まえだ ヒカルド さだひさ）氏
（両親が旧西伯郡南部町出身）
- (3) 移住経緯 1926 年（大正 15 年）に鳥取県海外協会が、ブラジルサンパウロ州の奥地に 3,000 町歩（1 町歩＝1 万 m²）の土地を購入して移住者を送り出した。「アリアンサ」とは、ポルトガル語で「協同・同盟」を意味する。

インド・オディシャ州との友好交流について

令和 8 年 8 月 21 日
交 流 推 進 課
通 商 物 流 課
雇用・働き方政策課

インド・オディシャ州との友好協定締結に向けて、7月27日（月）から31日（金）にかけて遠藤政策統轄監をトップとする交流協議団が訪印し、オディシャ州政府との交流協議、関係機関との意見交換会等を実施しましたので、次のとおり結果をご報告します。

1 オディシャ州政府との交流協議

経済、人材、青少年、観光、文化等の各分野での交流を目指して、オディシャ州の事務方トップであるアヌ・ガルグ（Anu Garg）首席次官ほかと協議を実施しました。

- (1) 日 時 令和8年7月29日（水）午前11時～正午
- (2) 場 所 オディシャ州政府庁舎 会議室
- (3) 協議者 オディシャ州政府：アヌ・ガルグ（Anu Garg）首席次官
鳥取県：遠藤政策統轄監、田口観光交流局長ほか
- (4) 主な協議内容
 - ・友好協定について、歓迎するとのコメントがあった。
 - ・本年秋の友好協定締結を目指して、引き続き経済・人材、青少年、観光、文化等の分野について交流内容の検討を進めていくことで合意した。



握手を交わす遠藤政策統轄監とアヌ・ガルグ首席次官（写真中央）

2 在インド日本国大使館訪問

オディシャ州との友好交流について状況報告するとともに、今後の交流に向けて大使館から助言を受けました。

- (1) 日 時 令和8年7月28日（火）午前11時～午後12時20分
- (2) 場 所 在インド日本国大使館
- (3) 相手方 栢（かや）総務参事官ほか
- (4) 大使館からの主なコメント
 - ・インドは数値目標を大切にしている傾向が強く、具体的成果が求められる。
 - ・製造業系をメインに日本に送り出し実績を持つ事業者を知っているので紹介する。



意見交換の様子

3 インド外務省訪問

オディシャ州との友好交流について状況報告するとともに、協定締結に向けたインド外務省による支援を求めました。

- (1) 日 時 令和8年7月28日（火）午後2時45分～午後3時30分
- (2) 場 所 インド外務省
- (3) 相手方 ジナ・ウイク（Gina Uike）局長級担当官ほか
- (4) インド外務省からの主なコメント
 - ・昨年の日印共同ビジョンにおいてインドの州、日本の県における地域間交流が謳われており、今回の動きを歓迎する。
 - ・人材交流に関しては、インド外務省としてもサポートしていきたい。



ジナ・ウイク氏（中央）との記念写真

4 カリंगा工業大学訪問

鳥取大学との連携可能性について提案・協議を行いました。

- (1) 日 時 令和8年7月30日（木）
- (2) 場 所 カリंगा工業大学（KIIT）
- (3) 相手方 サランジット・シン（Dr.Saranjit Singh）副学長ほか
- (4) カリंगा工業大学からの主なコメント
 - ・2024年以来、KIITと鳥取県の関係はこれまでの交流を通じて着実に成長してきた。共同学術研究や教員、学生交換プログラムなど様々な分野で今後長期的なパートナーシップを確立していきたい。
 - ・鳥取大学との間で工学部同士のLOI（Letter of Intent、意向表明書）を締結したい。鳥取県、鳥取大学との間で、強固で永続的なパートナーシップを築くことを楽しみにしている。
 - ・インターンシップ事業（本年12月にKIITの学生を鳥取県が受入）を通じて、鳥取の企業との強力なコラボレーションを構築することを期待している。



シン副学長から記念品を受け取る遠藤政策統轄監

【訪問先一覧】

7/27（月）	山陰インド協会・二宮インド支部長との意見交換
7/28（火）	在インド日本国大使館、インド外務省、古澤日本語学校
7/29（水）	オディシャ州政府庁舎、インド工科大学（IIT）ブバネシュワル校、Dhaui Peace Pagora（ダウリ・ピース仏塔）、州政府との夕食会
7/30（木）	カリंगा工業大学（KIIT）、スタートアップ・オディシャ（Startup Odisha※1）、World Skill Center（※2）、オディシャ州進出日本企業との意見交換会 ※1 州政府の管轄下で運営されている、同州の主要なスタートアップ企業及びイノベーション・エコシステムの統轄機関 ※2 職業訓練校や職業専門学校で学んだ学生が技能の専門性を高める州立のスクール